

すみれ 令和5年12月度特別作品

カンボジア すみれ

娘がカンボジアの男子留学生を連れて来た。夕食を共にしながらカンボジアの話聞き、歓待した。留学生会館にも出向き、催し物にも参加した。夫はまた別に「カンボジアに学校を建てよう」という会に参加。会員の家族旅行が組まれ、私も参加することになった。留学生の家族との付き合ひも始まり、彼の妹のホームステイを受け入れることになった。彼と我が娘はその縁、疎遠になったが、夫は連絡を取り合ひ、彼の妹のカンボジアでの結婚式にも参加することになった。縁の深いカンボジアであり、カンボジアの発展を願っている。

待ち合はす留学生の夏帽子

通訳のまどろこしくて夏の雲

早星宿に荷を入れ寝転びて

留学の彼が通訳炎天下

現地の子裸足で遺跡案内す

日焼の子竹細工持ち売りに来る

木から木へハンモック吊り男寝る

汗だくとなつて歩くや遺跡群

異国語の解らず笑ふ夏の月

星涼し異国の僧に手を合はせ

《作品鑑賞》

知佳子

すみれさんご夫婦にとつて、わが子のように思える留学生への温かい思いと、カンボジア愛に溢れる、前向きで明るい句を楽しく拝見しました。自然体で元氣が出るすみれさんの句が、いつも素敵です。

待ち合はす留学生の夏帽子

待ち合わせ場所で見つけた彼は、見違える程眩しく成長して、夏帽子がよく似合います。

通訳のまどろこしくて夏の雲

現地の人と直接会話して親交を深めたいという気持ちだが、「まどろこしくて」から伝わりませぬ。「夏の雲」が積極的な気持ちを後押しします。

現地の子裸足で遺跡案内す

裸足で働く子の小さくも逞しい足を追い、遺跡を訪ねる日。頼もしい子を見る目が優しく、臨場感のある生き生きとした好きな句です。

異国語の解らず笑ふ夏の月

夏の月夜、お酒を酌み交わしているのでしょうか。言葉は通じなくても、笑顔で心は通じ、笑い声が聞こえてくるような良い句です。